



2006. 10. 24 発行 京都工芸繊維大学職員組合発行

<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/kitunion/>

## 組合新役員と学長とのあいさつ・意見交換

10月19日に、今年度選出された組合役員が、学長に新任のあいさつに行き、約1時間に亘って懇談しました。勤務評価、学内での情報伝達・開示のシステム、などについて、通常の交渉の場とは異なる形での意見交換を行うことが出来ました。

最後に、「色々対立することもあるが、お互い大学を良くしていこうという熱意では一致するので、これからも話し合っていきましょう。」、ということで、散会しました。

## 第2回関西教職員「教育・研究フォーラム」が開催される。

10月21日に、関西の国公立大学の教職員組合が共同で、上記の集会を開催しました。京都新聞に以下のように掲載されています。

京都新聞』2006年10月21日付

国立大の現状や問題点語る  
尾池京大総長、同大で講演

大学の課題や将来像などを考える関西圏大学教職員「教育・研究フォーラム」が21日、京都市上京区の同志社大で開催された。記念講演では、尾池和夫京大総長が「いま大学は—高等教育の役割とあり方を問う」と題して、法人化された国立大の現状や問題点などを語った。関西にある国公立大の教職員組合が主催し今年で2回目。約90人が参加した。

尾池総長は「現在の大学は、生涯学習や産学連携なども求められている。京大も広報や社会貢献などで改革を進め、教職員の意識も変わってきた」と説明した。さらに、課題として「大学間で競争が激しくなるなか、大学の評価方法がいまだに定まっていないのは問題だ。また、中国などアジアの大学が世界中から学生を集めており、将来的に日本から若者が流出する恐れもある」などと指摘した。

記念講演の後、参加者は、世界的な大学の研究教育拠点づくりを目指す「21世紀COEプログラム」の問題点や学生の指導方法など4テーマに分かれて意見交換した。

## 府立大学、府立医大の法人化シンポに 大倉委員長がパネラーで出席

11月18日に府立大学、府立医大の法人化のシンポが開催されます。大倉委員長が、パネラーとして出席し、国立大学法人化の経験や問題点等の話題を提供する予定です。これに関連して、これらの大学と本学との包括協定の話が京都新聞に掲載されていました。

京都府立医科大学(付属病院)と府立大学の法人化を考えるシンポジウム

講演：公立大学の法人化を考える 市橋克哉(名古屋大学大学院法学研究科教授)

コーディネータ：中島正雄(府立大学教授) パネラー：弁護士、医師、国立大学教職員

日時：11月18日(土)13:00-16:00 会場：ルビノ堀川

『京都新聞』2006年10月20日付

教育研究で 包括協定に調印  
京都府立大・府立医大・工繊大

京都府立大、府立医科大、京都工芸繊維大の三大学は20日、教育研究での連携推進に向けた包括協定に調印した。同日午前、府公館(京都市上京区)で山田啓二知事も同席し、三大学の学長が協定書を交わした。

協定は教育研究の充実、地域と社会への貢献を目的に▽豊かな人間性を養う教育の共同実施▽単位互換制度の推進と大学院連携の構築▽異分野融合、学際領域の拡大を目指す研究協力▽大学の知を活用した地域連携と貢献—を三大学で進めるとしている。教養教育については単位互換のほか、国立大と公立大の間ではこれまで例がない共同実施も検討する。

調印式で山田知事は「少子化や学問の複雑化など大学を取り巻く環境変化のなかで、三大学の共同は京都と学生に大きな実りをもたらす。効率を求めた東京と違う形で進めたい」。江島義道・工繊大学長が「三大学は相互補完的な学問分野を持ち、生命やヘルスサイエンス、医用工学、環境科学などの分野で強化が期待できる」と述べた。